

## 会議議事録

1. 会議名 平成29年度第2回中間市地域公共交通会議
2. 開催日時 平成29年7月24日（月曜日）10時30分から11時15分まで
3. 開催場所 中間市役所別館3階特別会議室
4. 出席委員（21名）

|                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 中間市副市長                     | 後藤 哲治                |
| 中間市総合政策部長                  | 佐伯 道雄                |
| 中間市土木管理課長                  | 藤田 晃                 |
| 西鉄バス北九州株式会社 営業本部計画課長       | 吉田 亮                 |
| 九州旅客鉄道株式会社 筑豊篠栗鉄道事業部長      | 幸野 茂<br>(代理) 油布 進    |
| 筑豊電気鉄道株式会社 総務課長            | 秋山 務                 |
| 有限会社ことぶきタクシー 代表取締役         | 小林 義人                |
| ひかり第一交通株式会社                | 前田 健太郎               |
| 一般社団法人北九州タクシー協会 副会長        | 貞包 健一                |
| 中間市自治会連合会会長                | 池田 久紀                |
| 中間市自治会連合会中間東校区長            | 田口 孝一                |
| 中間市自治会連合会中間南校区長            | 山下 徹                 |
| 中間市自治会連合会中間校区長             | 香月 国光                |
| 中間市自治会連合会中間西校区長            | 石田 輝男                |
| 中間市自治会連合会底井野校区長            | 占部 友幸                |
| 中間商工会議所 副会頭                | 日高 教夫                |
| 国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官 | 佐々木 庸敏<br>(代理) 近藤 裕介 |
| 国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官 | 河津 隆幸                |
| 福岡県企画・地域振興部交通政策課 交通総務係長    | 堺 裕之<br>(代理) 古川 二郎   |
| 福岡県北九州県土整備事務所 地域整備主幹       | 橋村 浩                 |
| 北九州市立大学 地域戦略研究所 教授         | 内田 晃                 |

#### 5. 欠席委員（6名）

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 有限会社ホームタクシー 代表取締役   | 高亀 勝   |
| 産業タクシー株式会社 代表取締役    | 森 正秀   |
| 一般社団法人福岡県バス協会 専務理事  | 中川原 達也 |
| 西鉄バス北九州労働組合         | 木原 正志  |
| 中間市社会福祉協議会 事務局長     | 久内 勝   |
| 福岡県折尾警察署交通第一課交通規制係長 | 吉村 道真  |

#### 6. 事務局（3名）

|                  |       |
|------------------|-------|
| 住宅都市交通対策課長       | 志賀 由浩 |
| 住宅都市交通対策課 交通対策係長 | 花田 雅子 |
| 住宅都市交通対策課 交通対策係  | 山口 研治 |

#### 7. 会議内容

##### ■式次第

##### （1）開会

##### （2）議題

①平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正報告について

②平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組について

##### （3）その他

今後の会議スケジュール

①中間市地域内フィーダー系統確保維持計画修正報告の提出

（提出先：福岡運輸支局）【提出期限8月31日】

②第1回幹事会（8月中旬開催予定）

③第2回幹事会（11月下旬開催予定）

④第3回交通会議（12月下旬開催予定）

##### （4）閉会

##### ■会議録

事務局 おはようございます。事務局の住宅都市交通対策課志賀でございます。

本日もどうぞよろしくお願い致します。

定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第2回中間市地域公共交通会議を開催いたします。

本日の会議の開催に際しまして、高亀委員、森委員、中川原委員、木原委員、久内委員、吉村委員が所用によりご欠席となっておりますことをご報告申し上げます。

また、本会議は、中間市地域公共交通会議設置要綱第6条第5項の規定により、原則公開としております。

現在、傍聴者8名が入室致しておりますことをご報告いたします。

それでは、お手元の資料をご確認ください。

今回の資料につきましては、式次第、委員名簿、座席表、資料A、資料B、資料C、資料Dと参考資料1に分かれております。

また、資料につきましては、ページの下、中央部にページ番号をつけておりますので、説明の際は、ページ番号にて説明箇所をご案内いたします。

資料の不足している方はおられませんでしょうか。

それでは、議事に入ります前に、7月の人事異動により委員の交代がございましたので、後任の委員の方をご紹介しますいただきます。

本日お配りしております委員名簿をご覧ください。新しい委員の方は、赤枠で囲ってございます。7月の人事異動により、西鉄バス北九州株式会社営業本部計画課長に吉田様が着任されましたので、本日の会議から委員としてお迎えしておりますことをご報告いたします。吉田様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。発言される際はまず、挙手をしていただき、指名されましたらお手元のマイクのボタンを押して、ランプが点灯してから発言してください。発言が終わりましたらボタンをもう一度押していただくとランプが消え、マイクが切れます。

それでは、後藤副市長、今後の進行をお願いします。

会長 皆さん、おはようございます。このお暑い中、本年度、第2回目の交通会議にお集まりいただきありがとうございます。5月22日に第1回交通会議が行われました。その中で、皆さまから忌憚のないご意見をお出しいただき、参考とさせていただきました。早速ではございますが、式次第にそって議事を進めて参ります。まず、式次第の2番目、本日の議題といたしまして、(1)平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正報告について、皆さまから忌憚のないご意見をいただき修正しておりますので、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、議題の(1)平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正報告についてご説明をいたします。

資料Aをご準備ください。

平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画につきましては、5月22日開催いたしました第1回会議において、委員の皆様にご承認をいただいたところですが、国の補助要綱でございます地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱が、6月9日付けで改正され、計画の様式に変更がございましたので、修正した計画案を改めてご提示し、修正した箇所をご説明いたします。

資料Aの3ページをご覧ください。

2、地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果の(1)事業の目標につきまして、

前は、平成30年度のみ表記しておりましたが、赤枠で囲った平成31年度と平成32年度の各系統の年間利用者数、収支率を追加いたしました。

年間利用者数につきましては、各年度の運行日数に応じて設定しております。また、この目標値が、中間市地域公共交通網形成計画のどのページと関係があるのか明記しております。

4ページをご覧ください。

底井野校区路線につきましても、赤枠で囲った箇所のように、平成31年度と32年度の各系統の年間利用者数及び収支率を追加し、中間市公共交通網形成計画の該当ページ数を明記しております。

続きまして、5ページをご覧ください。

3、2.の目標値を達成するために行う事業及びその実施主体として、2つの項目を挙げ、その実施主体として市と事業者としております。

まず1つは、平成28年度に実施した南校区コミュニティバス「フレンドリー号」の利用実態に関するアンケート調査結果及びモニタリング調査結果、平成29年度に実施する住民座談会の結果を受けて、利用促進策の検討を行い、事業の効果検討を行います。

もう一つは、平成29年度に実施する底井野校区コミュニティバス「なかよし号」の利用実態に関する調査結果及びモニタリング調査結果を基に、住民座談会を開催し、利用促進策の検討を行います。

また、中間市地域公共交通網形成計画の該当するページを明記しております。

少しページが飛びますが、11ページをご覧ください。

表1の様式が変更となっております。地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者として、4つの系統の平成30年度の計画運行日数や計画運行回数、運行態様の別、そして、地域間幹線系統である西鉄バス北九州株式会社の中間線と通谷電停で接続することを記載しております。

続きまして12ページをご覧ください。

表5では、国庫補助上限額の算定式が変更となりまして、平成30年度の国庫補助上限額は、3,283,000円となっております。第1回会議でご提示した金額から600,000円ほど減額となっております。

以上が、平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正箇所でございます。

会長

ありがとうございました。ただいま事務局から修正案の報告がございました。主なものと申しますと、国の補助要綱が6月9日付けで一部改正されたことによる修正、それに伴う追加項目欄の作成、最終的に限度額の変更ということが主なものでございます。ただいま事務局から説明がありました平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正報告につきまして、委員の皆さまからご意見・ご質問はございませんでしょうか。修正案のとおりでよろしいでしょうか。

それでは、事務局から報告がありました修正内容につきまして、ご承認をいただくことでよろしいでしょうか。

～承認～

会長      ありがとうございました。平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画につきましては、修正した内容で速やかに、事務局から福岡運輸支局様にご提出をよろしくお願いいたします。それでは、続きまして、議題の（２）平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組について、事務局から説明をお願いします。

事務局    それでは、資料Bをご準備ください。平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の実施につきましてご説明いたします。中間市地域公共交通網形成計画推進事業につきましては、第1回会議でご承認をいただきましたように、6月22日、委託業者を選定するプロポーザル審査委員会を開催し、近隣自治体において交通計画等、類似の業務実績のある事業者3社を事務局において指名し、2社は辞退することとなりましたが、1社による企画提案方式によるプレゼンテーションを行ったところでございます。それでは、中間市地域公共交通網形成計画推進事業委託業者選定に関するプロポーザル審査委員会の委員長で、幹事会の代表でもあります当市総合政策部長の佐伯から審査結果をご報告いたします。佐伯部長よりお願いいたします

部長      6月22日に実施いたしました中間市地域公共交通網形成計画推進事業委託事業者選定に関するプロポーザル審査委員会の結果についてご報告いたします。審査委員会は、中間市の地域公共交通の将来像を定めた公共交通のマスタープランとなる中間市地域公共交通網形成計画を推進し、事業を実施する委託業者を選定することを目的とした委員会で、交通会議の幹事会委員8名で構成する委員会でございます。この委員会におきまして、底井野校区で実施するアンケート調査であります「コミュニティバスに関するモニタリング」と「路線バス沿線住民に対するモビリティ・マネジメント」を実施するにあたり、地域の現状、特性を十分に理解し、適切なノウハウを有しているかなど5段階方式による採点を行いました。その結果といたしまして、資料Bにございますように、最高得点者1名と最低得点者1名、そして欠席者を除く5名の委員の合計が396点となり、平均得点が79.2点で、基準点の64点を超えていますことから、今回、株式会社ケー・シー・エス様を委託業者として選定したところでございます。以上でございます。

事務局    佐伯部長、ありがとうございました。それでは、株式会社ケー・シー・エス様から一言ご挨拶申し上げます。

～株式会社ケー・シー・エス様 挨拶～

事務局    ありがとうございます。それでは、資料Cをご覧ください。  
平成29年度の中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組につきまして、ご説明いたします。まず1ページをご覧ください。

このページには、中間市の地域公共交通の課題、今後の方策、また、計画の基本方針をお示しし、計画の目標年度でございます平成32年度の数値目標を掲載しております。

2ページをご覧ください。

平成29年度の取組みといたしまして、(1) 公共交通不便地の解消として、①底井野校区アンケート調査及びモニタリング調査、②中間南校区住民座談会の実施、(2) 交通まちづくりに対する市民の意識向上として、①路線バス沿線住民へのモビリティ・マネジメントの実施、②高齢者運転免許証自主返納支援事業の実施に取り組んでまいります。

3ページをご覧ください。

底井野校区アンケート調査及びモニタリング調査につきまして、ご説明いたします。

底井野校区アンケート調査の概要は、調査対象1,500世帯、調査時期9月下旬から10月頃、調査項目、年齢、性別、底井野校区コミュニティバスの利用の有無や、利用したことがある人には、利用頻度、利用目的、不満点などをお聞きし、利用したことがない人には、利用しない理由や利用するための条件などをお尋ねいたします。

また、底井野校区モニタリングの概要の主な評価指標として、乗降データなどの既往データやアンケート調査の結果を活用して、交通網形成計画の目標値の比較や、運行時間、便数、ルート、運賃などは地域住民にニーズを満たしているか、地域住民や高齢者に認知されているかなどを分析し、交通網形成計画の目標値の達成状況の検証や底井野校区コミュニティバスに対する住民ニーズや課題等を整理し、今後の利用促進に向けた方向性を検討してまいります。

次のページをご覧ください。

4ページから9ページには、今年度実施するアンケート調査票の案を掲載しております。

この案をたたき台として、実施に向けて取り組んでまいります。

続きまして、10ページをご覧ください。

中間南校区住民座談会の実施について、ご説明いたします。平成28年度に実施した南校区アンケート調査及びモニタリング調査の結果を基に、アンケート調査では、把握することできなかった住民ニーズの把握に取り組み、今後の利用促進策の検討や改善に向けた検討を行ってまいります。対象地区は、中間南校区12自治会を対象とし、地区をいくつかのグループに分けて、座談会を開催したいと考えております。実施時期は、9月から12月頃の開催を予定しております。

実施内容といたしましては、①南校区アンケート調査結果の報告、②フレンドリー号の運行状況を分析したモニタリング調査結果の報告、③イオンなかま店への停留所新設の報告、④フレンドリー号の今後の利用促進策、改善に向けた意見交換など、住民ニーズの把握を行ってまいります。

次のページをご覧ください。

11ページから13ページには、南校区アンケート調査の結果を参考資料として、掲載しておりますので、のちほどご確認ください。

それでは、14ページをご覧ください。

路線バス沿線住民へのモビリティ・マネジメントの実施について、ご説明いたします。

平成28年度に取り組んだ公共交通マップの配布による周知効果を最大限に生かすため、路線バス沿線住民に時刻表などの情報冊子やアンケート調査を実施し、公共交通への利用を促すモビリティ・マネジメントを実施いたします。

まず①として、実施計画書を作成し、モビリティ・マネジメントに関する考えて方や対象エリア、実施方法を整理いたします。

対象エリアといたしましては、路線バス利用者数の状況や利用できる公共交通機関の状況、バス停との高低差の状況、高齢者数の状況などを踏まえ、決定してまいります。

続きまして、②コミュニケーションツールの作成といたしまして、公共交通の取組み、公共交通を利用するメリット、公共交通のお得な情報、路線バスの運行情報、マイ時刻表など、公共交通の情報を盛り込んだ利用に向けた動機づけとなる情報冊子を作成し、アンケート調査票と一緒に配布いたします。

15ページをご覧ください。

③コミュニケーションアンケートの作成といたしまして、公共交通の利用に向けた行動変容を促すアンケート調査を実施いたします。アンケートの主な項目といたしまして、回答者の属性、現在の日常移動の目的・移動手段、公共の利用、公共交通に関する情報や動機づけ情報、公共交通の取組みや現状に対する評価、公共交通に対する意識の変化・今後の利用意向などをお聞きし、④モビリティ・マネジメントの実施効果・課題等の検証、今後の取組み等を検討してまいります。

続きまして、高齢者運転免許証自主返納支援事業の実施について、ご説明いたします。

この事業は、高齢者が加害者となる事故の防止と公共交通の利用促進を目的として、70歳以上の高齢者の方で、運転免許証を自主返納した方に、交通事業者が発行するICカードやタクシー回数券、コミュニティバス回数券を交付いたします。

事業開始日は、平成29年10月1日とし、補助対象者は、平成29年4月1日以降にすべての種類の運転免許証を自主返納した返納時に満70歳以上の方になります。申請期間は、運転免許証を自主返納した日から1年以内で、補助金額は、交通事業者のICカード等やタクシー回数券、コミュニティバス回数券を1人1回いずれか1つを5,000円分交付することとしております。

16ページをご覧ください。

4、平成29年度の実施スケジュールを掲載しております。下の青色の枠で囲っておりますように、本年度につきましても、幹事会と交通会議で役割分担を行いまして、幹事会で、底井野校区アンケート調査票案やモビリティ・マネジメントの情報ツールやアンケート調査票案、住民座談会の実施方法案など詳細を検討し、事業を実施してまいりたいと考えております。

また、12月開催予定の第3回交通会議と2月に開催予定の第4回交通会議では、実施した各事業の検証を行ってまいります。

平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組の内容は以上でございますが、本日、参考資料1として、コミュニティバスの運行実績をご準備しておりますので、ご説明いたします。

参考資料1をご準備ください。1ページをご覧ください。

南校区コミュニティバス「フレンドリー号」の太賀・朝霧系統の運行開始した平成27年10月から平成29年5月までの20か月間の運行実績でございます。赤枠で囲まれた直近の4月と5月の1便あたりの利用者数は、4月が1.11と1便あたり1人を超えておりましたが、5月は0.85人を減少しております。

2ページをご覧ください。

1ページの表から、1人あたりの市負担額と1人あたりの利用者数をグラフにしたものでございます。平成28年12月以降、1人あたりの市負担額は、1,100円から

1,600円を推移し、1人あたりの利用者数は、1.0人前後を推移しております。

3、各停留所月平均乗降者数では、通谷電停が43.0人と圧倒的に利用が多い状況です。続きまして、3ページをご覧ください。

通谷・桜台系統の平成27年10月から平成29年5月までの運行実績を表にしております。

赤枠で囲った直近の4月と5月の1便あたりの利用者数をみますと、4月が0.94人、5月が0.97人と増加傾向にありますが、1.0人を下回っております。

次のページをご覧ください。

2、1人あたりの市負担額と1便あたりの利用者数をグラフにしたものでございます。赤枠で囲ったところですが、3月に1便あたり0.74人と利用者が少なくなり、1人あたりの市負担額が約2,000円と非常に高く、4月、5月は利用者が増加傾向にありますが、市負担額が、1,400円台で推移している状況が続いております。

3、各停留所月平均乗降者数は、通谷・桜台系統も、42.2人で通谷電停の利用者が圧倒的に多い状況となっております。

続きまして、5ページをご覧ください。

底井野校区コミュニティバス「なかよし号」の垣生・下大隈系統の平成28年10月から平成29年5月までの8か月間の運行実績を掲載しております。

2、利用者数と運行率の表をみますと、利用者数、運行率ともに増加傾向にあり、運行率は、50%を超えている月がございます。

3、各停留所月平均乗降者数では、16.5人で中間市立病院の利用がもっとも多くなっております。

6ページをご覧ください。

砂山・底井野系統の平成28年10月から平成29年5月までの運行実績を掲載しております。

2、利用者数と運行率をみますと、この系統も利用者は増加傾向にあり、運行率も6割近い月もございます。

3、各停留所月平均乗降者数では、砂山・底井野系統では、20.3人で、にしてつストアの利用者がもっとも多い状況となっております。以上が、各系統の運行実績でございます。

会長      ありがとうございます。それでは、ただいま事務局から説明がありました平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組について、説明がありましたが、場所によっては、減少しているところもあれば、一部の地区のみ増加しているところもあります。川西地区につきましては、増加傾向にあり、コミュニティバスのよさが周知されていたのではないかと考えております。ただいまの事務局の説明につきまして、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

委員      底井野校区長の占部と申します。本日、事務局の方から底井野校区において9月下旬から10月頃にアンケート調査を実施するとの提案がありました。なかよし号は、今年の9月で運行開始1年を迎えます。その時期に、アンケート調査を底井野校区の全世帯に行い、住民の方の意見をお聞きすることは非常に重要なことと考えております。参考資料として、配布されています運行実績のように、なかよし号は、利用者も運行率も増加傾向にありますので、このアンケートも一つの周知手段として、今後、さらなる利用者が増えるような取組みをみなさんと検討していくことができればと思いますので、どうぞご協力をお願いいたします。

委員      ことぶきタクシーの小林でございます。フレンドリー号の利用される方が少ない状況です。やはり1.1人では、物足りないというか、もっと周知をよろしく願います。秋からイオンなかま店に停留所を新しく新設いたしまして、太賀団地の方の利便性がよくなるように運行経路を変えるようにしておりますので、利用者を増やすような努力していただきたいと思います。よろしく願います。

委員      北九州市立大学の内田でございます。今回、事務局から平成29年度に4つの事業を行うと提案がありました。今後の中間市の公共交通ネットワークを維持していくためには、どれも重要な施策であると考えております。コミュニティバスの効果検証につきましては、アンケート調査と住民座談会をセットで実施していくことで、よりきめ細かく住民ニーズを把握していくことができると思います。

路線バス沿線住民へのモビリティ・マネジメントですが、西鉄バス中間線は今後高齢化が進行する中で、市民の皆さんの日常生活の移動を支える非常に重要な移動手段でありますので、今回のモビリティ・マネジメントによって効果的な対象エリアを選定し、情報ツールやアンケート調査を行って沿線住民の皆さま方の公共交通への意識を高め、10回移動するうちの1回、2回でも公共交通を利用していただけるようなきっかけづくりになればと思います。

今年度の事業を効果的に行うためには、行政だけでなく、交通事業者の方と住民の方、みなさんのご協力がないとうまくいかないと思いますので、事務局が音頭を取りながら、効果的な事業が行えるように、実施していただきたいと思います。

委員      福岡運輸支局の河津です。内田先生よりご発言がありまとしたとおり、平成29年度に取

組めます計画推進事業につきましては、非常に大切な取組と感じています。昨年10月に運行を開始しました底井野校区の「なかよし号」につきましては、今後の利用促進を図るための基礎資料となるアンケート調査及びモニタリング調査の実施、また、運行開始から2年目が経過しようとする中間南校区「フレンドリー号」につきましては、昨年実施したアンケート調査及びモニタリング調査結果を基に、住民座談会の実施となっています。他の市町村におきましても利用促進策として住民座談会を行うことで新たな利用者の掘り起しにつながっている地区もございますので、行政と地域住民と一体となった利用促進に取り組んでいただければと考えております。また、平成30年度から補助要綱が改正されております。底井野校区のなかよし号につきましては、デマンドということで、運行回数の30%の利用というのが上限になり、今クリアしておりますが、フレンドリー号につきましては、片道1.0人を超えて、1回あたり2.0人以上でないと補助対象であっても補助ができないということに変更されております。利用促進に努めていただいて、利用者の増につなげていただきたいと思います。

会長 貴重な意見ありがとうございました。ただいま、占部委員からは、なかよし号が、今年の9月で運行開始1年を迎え、その時期にアンケート調査を底井野校区の全世帯に行うことは、住民の方から意見をお聞きする上で、非常に有効な手段であること。そして、なかよし号の利用者や運行率が、増加傾向にあり、このアンケート調査を一つの周知手段として、今後、さらなる利用者が増えるような取組みをみなさんと検討していきたいとの意見がありました。また、小林委員からは、「フレンドリー号」の運行実績が、1便あたり1.0人前後と非常に利用者が少ない状況であり、本年度、イオンなかま店への停留所新設や、底井野校区でのアンケート調査、そして中間南校区での住民座談会などが実施されるので、この機会を最大限に生かして、利用促進を図ることが重要であること、交通事業者といたしましても、10月からのイオンなかま店への乗り入れに向けてスムーズな運行ができるよう、安全運行を第一に取り組んでいきたいとのご意見がありました。北九州市立大学の内田先生からは、今回の4つの事業につきましては、今後の中間市の公共交通ネットワークを維持していくために、重要な施策であること、コミュニティバスの効果検証は、アンケート調査と住民座談会をセットで実施していくことで、きめ細かく住民ニーズを把握していくことができること、また、西鉄バス中間線につきましても、今後高齢化が進行する中で、日常生活の移動を支える非常に重要な移動手段であるので、情報ツールやアンケート調査を行って、公共交通への意識を高め、10回移動するうちの1回でも2回でもいいから公共交通を利用していただけるようなきっかけづくりになればよいこと、そして、今年度の事業を効果的に行うためには、みなさんの協力がなければ、成功しないので、協力して実施していただきたいというご意見をいただきました。また、福岡運輸支局からは、平成29年度の計画推進事業の取組であります底井野校区のなかよし号のアンケート調査と中間南校区の住民座談会は非常に重要な取組と感じていること、他市町村におきましても、利用促進策として住民座談会を行うことで、コミュニティバスを利用しやすい公共交通という理解を深め新たな利用者の掘り起しに効果をもたらしているの、行政、地域住

民が一体となった利用促進に取り組んでいただきたいという意見がありました。

ただいまのご意見をまとめますと、平成29年度の計画推進事業は、今後高齢化が進行するなかで、中間市の公共交通ネットワークを維持していくうえで、非常に重要な事業であり、行政と交通事業者、住民のみなさんが連携して、公共交通への意識を高め、コミュニティバスや路線バスなどを利用するきっかけづくりを行うことが、住民の皆さまにとりまして、よりよい公共交通の環境につながるということにまとめることができると考えております。今回の実施の中で、アンケートと住民座談会をワンセットにすることが、住民目線で物事を考えて、住民が何を求めているのか、われわれがどういうことができるのかを考えていくことで、目標値である利用者数を2.0人にもっていきたいと思います。

それでは、本日、事務局から提案がありました平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取組につきましては、提案どおり進めていくこととし、今後の事業の実施につきましては、幹事会でアンケート調査票や座談会等の詳細な内容を検討したうえで、事業を実施し、12月と2月に開催予定の交通会議において、その結果を検証していくことで今年度は進めてまいりたいと思います。また、昨年度同様、内田先生には、幹事会にオブザーバーとして参画していただき、忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますが、委員の皆さま、このように進めてまいりますことでよろしいでしょうか。

～異議なし～

会長      ありがとうございます。それでは、事務局におきまして、中間市地域公共交通網形成計画推進事業の実施に向けて、幹事会を適切な時期に開始し、詳細を審議したうえで、事業を実施してください。また、アンケート調査や住民座談会の結果につきましては、交通会議に報告し、みなさまに検証していただいたうえで、公表するようお願いいたします。

そして、内田先生には、ご多忙中のこととは存じますが、ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、式次第の3その他、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局    それでは、資料Dをご覧ください。

赤枠で示しておりますように、平成30年度中間市地域内フィーダー系統確保維持計画の修正報告につきましては、8月31日までに福岡運輸支局様にご提出いたします。

また、平成29年度中間市地域公共交通網形成計画推進事業の実施に向けまして、赤い色で示しておりますが、8月中旬に第1回幹事会を、11月下旬に第2回幹事会を開催し、黄色で示しておりますように、第3回交通会議は、12月下旬、第4回交通会議は、2月上旬に開催いたします。委員の皆さまには、お忙しい時期とは存じますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。以上でございます。

会長      ありがとうございます。ただいま、事務局から会議のスケジュールに関しまして、ご報

告がありましたが、ご質問等はございますでしょうか。

それでは、ただいま、事務局からご報告がありましたスケジュールで進めさせていただきます。それでは、本日の地域公共交通会議の議題すべてが終了いたしました。委員の皆さまには、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありましたように次回、第3回会議は、12月下旬の開催を予定しております。また、幹事会委員の皆さまは、第1回会議を8月中旬に開催いたしますので、お忙しい時期とは存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。